

愛知・名古屋 2026 大会

ボランティア運営基本計画

2024 年 3 月

公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会/愛知県・名古屋市

目次

はじめに	1
1 章 アジア・アジアパラ競技大会のボランティア	2
1-1 アジア・アジアパラ競技大会のボランティア	2
1-2 愛知・名古屋 2026 大会におけるボランティア	3
1-3 関係機関との連携	7
2 章 ボランティアの募集	9
2-1 募集に向けた取組	9
2-2 活動条件および待遇	9
2-3 募集・採用	11
2-4 多様な参加者の活動促進	12
3 章 ボランティアの研修	13
3-1 研修概要	13
3-2 研修における留意点	14
4 章 ボランティア参加に向けた機運醸成	17
4-1 愛知・名古屋 2026 大会のボランティアに関する情報発信	17
4-2 機運醸成イベントの実施	17
5 章 大会後のレガシー	19
5-1 共生社会の実現に向けて	19

はじめに

2026年に第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会（以下、「愛知・名古屋2026大会」という。）が愛知県・名古屋市で開催される。

アジア競技大会およびアジアパラ競技大会（以下、「アジア・アジアパラ競技大会」という。）は、4年に1度開催されるアジア最大のスポーツの祭典であり、直近では2023年に中国の杭州市で開催され、アジアの国々の注目を集める大会となった。

これに続く愛知・名古屋2026大会においても、45の国と地域が参加する見込みであり、国内外から多数の選手や大会関係者、観客の来訪が見込まれている。

我が国のスポーツ界にとって、愛知・名古屋2026大会は東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」という。）に続く大きな目標となるだけでなく、拡大するアジアとの交流を一層深めていく意味で、我が国全体にとって大変意義のある機会となる。

こうした中で、愛知・名古屋2026大会におけるボランティアは、大会運営の現場を支える存在であるとともに、その活躍が「大会の顔」として大会全体のイメージを作り上げる非常に重要な役割を担っている。

ボランティアを含めた大会関係者が「大会成功」という共通の目標に向けて共に歩み、一致団結して大会を作り上げることで、選手や関係者、メディア、観客などへ素晴らしい体験や感動を提供することが期待される。

また、大会に向けてボランティアと共に歩む道のり自体が、ボランティアを含めた大会関係者にとって貴重な共通体験となる。

ボランティア参加者に価値のある体験や感動を提供すべく、公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会（以下、「組織委員会」という。）と愛知県・名古屋市（以下、「開催都市」とする。）が連携し、「愛知・名古屋2026大会ボランティア運営基本計画」において、ボランティアに関する取組内容や活動条件、今後のスケジュール等を整理した。

活動内容や接遇などの研修の充実を図り、年齢や障害の有無に関わらず、全ての方が楽しみながら笑顔で活動できるボランティアの運営管理を目指していくとともに、多くの方がボランティアとして参加し、楽しく、やりがいを感じながら活躍していただくことにより、共生社会の実現やアジアの友好親善への懸け橋となる大会を目指していきたい。

Ⅰ章 アジア・アジアパラ競技大会のボランティア

Ⅰ－Ⅰ アジア・アジアパラ競技大会のボランティア

(Ⅰ) アジア・アジアパラ競技大会におけるボランティアについて

アジア・アジアパラ競技大会には選手およびチーム役員などのアジア各国選手団、審判等の技術役員、放送局・プレス関係者、アジア・オリンピック評議会やアジアパラリンピック委員会関係者、マーケティングパートナー、観客等様々な立場の人々が参加する。

このうち、大会運営を支える人々を大会スタッフと呼び、組織委員会職員や開催都市職員、請負事業者と共に、ボランティアも大会スタッフに含まれる。

また、ボランティアは、大きく2種類に分類される。

大会準備期間のテストイベント等の運営サポートから大会本番時まで、競技会場・メインメディアセンター(MMC)、宿泊施設等の大会関連施設において観客案内のサポートや競技運営のサポート等を行うボランティアを総称して「大会ボランティア」と呼ぶ。

これに対して、会期間中、会場の最寄り駅周辺における観客誘導や国内外からの観客に対する観光・交通案内などを行うボランティアを総称して「都市ボランティア」と呼ぶ。

(Ⅱ) 杭州 2022 大会におけるボランティアの活躍

2023年に中国の杭州市で開催された第 19 回アジア競技大会・第 4 回アジアパラ競技大会(以下、「杭州 2022 大会」という。)では、学生を中心に様々なバックグラウンドを持つ人がボランティアに応募し、約 37,000 人が大会ボランティアとして採用され、競技運営や言語サービス、メディアサポートや空港運営サポート等 12 種類の役割に分かれて活動した。

競技終了後には競技会場での観客見送りなど、ホスピタリティに富んだ活動が実施され、会場全体に明るい雰囲気を醸成し、大会の成功に大きく貢献した。

1-2 愛知・名古屋 2026 大会におけるボランティア

愛知・名古屋 2026 大会を通じて、大会ボランティア・都市ボランティアの参加者一人ひとりが様々な時間や空間、体験や感動を共有し、「おもてなしの心」を活かして愛知・名古屋 2026 大会に関わる全ての人の絆を深めるような活動を行うことが、大会成功の重要な要素となる。

また、ボランティアの参加者一人ひとりが、自ら進んで活動に参加し、活動を楽しむことで、大会全体を盛り上げ、大会の魅力を高めていくことに繋がっていくため、多くの方にボランティアへの参加を呼びかけていく。

(1) ボランティアの活動

① 想定人数

約4万人

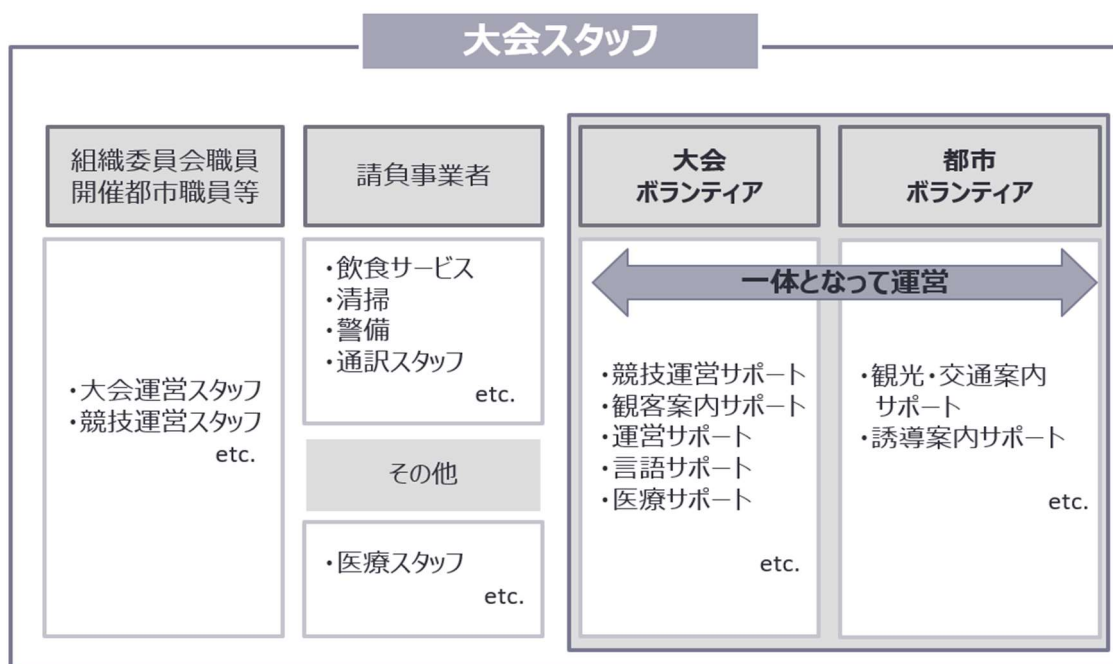
(アジア競技大会:約 2 万 8 千人、アジアパラ競技大会:約 1 万 2 千人)

② 運営主体

組織委員会と開催都市は、ボランティアの運営・管理を行う事務局を設置して、「大会ボランティア」と「都市ボランティア」について、一体となって募集・研修・運営を実施する。

なお、大会ボランティアに関する方針の決定は組織委員会が行い、都市ボランティアに関する方針の決定は開催都市が行う。

【参考】愛知・名古屋 2026 大会における主な大会スタッフ



【参考】直近の日本で行われたボランティア運営にかかる類似事例

- ▶ 東京 2020 大会では「大会ボランティア」を組織委員会が、「都市ボランティア」を東京都（開催都市）等がそれぞれ募集・研修・運営を実施。
- ▶ ラグビーワールドカップ 2019(以下、「RWC2019」という。)では、愛知・名古屋 2026 大会と同じく組織委員会と開催都市が一体となってボランティアの募集・研修・運営を実施。

東京2020大会		RWC2019	
組織委	東京都	組織委	12開催都市
大会ボランティア (Field Cast) 競技会場内、 選手村、MMC、 空港における関係者向けサービス 等	都市ボランティア (City Cast) ラストマイル 主要駅、ライブサイト等	大会ボランティア (Team NO-SIDE) 競技会場内、ラストマイル メディアセンター、空港、主要駅、ファンゾーン 等	

(2) 大会ボランティアの主な活動内容

大会ボランティアの活動内容は、競技会場やメインメディアセンター、宿泊施設等の大会関連施設において、競技運営や観客案内のサポートなど多岐にわたっており、杭州 2022 大会での活動内容を参考にして、以下のような活動を想定している。

今後、ボランティア募集時・採用時など大会運営準備を進めていく中で、各必要人数は精査していく。

【大会ボランティアの主な活動内容(例)】

ボランティアの種類	活動内容(例)
競技運営サポート	競技会場や練習会場において、競技役員などの指示のもと、競技の進行補助やアスリートのサポートなど競技運営のサポート等を行う。
観客案内サポート	会場内で観客等の誘導、チケットチェック、入場管理のサポート等を行う。
運営サポート	競技会場やメインメディアセンター、宿泊施設などにおける運営や各対応のサポートを行う。
輸送サポート	大会関係者が会場間を車で移動する際の運転や乗降場での案内を行う。
スタッフ受付サポート	競技会場・宿泊施設等大会関係施設におけるスタッフの受付サポート。スタッフの照合確認後、シフトの確認や必要事項の伝達を行う。
言語サポート	選手、メディア、海外 VIP などの大会関係者に対して外国語でのコミュニケーションサポートなどを行う。
会場運営サポート	アクセスコントロールやアンブッシュパトロールなどのサポートを行う。
選手サポート	各国から訪れる選手団に対するサポートを行い、選手が快適な競技生活を送ることができるようにサポート等を行う。
ラウンジサービス	選手や関係者が使用する会場内の各ラウンジでのサービス補助や片づけ等を行う。
テクノロジーサポート	競技結果の速報作成やその他 IT 関連業務のサポートを行う。
医療サポート	観客や関係者などに急病人やけが人が出た場合の対応をサポートする。
大会準備サポート	ア krediyteshonkard(※)の作成やユニフォーム等の配布、大会関係者が出席する国際会議場等のインフォメーションデスクでの問い合わせ対応のサポートを行う。

※ 大会関係者等の身分を証明するとともに、各役割に応じて必要なエリアへのアクセス権を付与するもの

ボランティアの配置ポイントの検討に当たり、以下4点を考慮していく。

- ① ボランティアは単独で配置せず複数のポストと一緒に配置すること。
- ② 単純に看板（サイン）の設置だけで足りる配置については看板（サイン）で対応し、人の案内が必要な箇所のみボランティアを配置すること。
- ③ 建物の特徴や構造等を考慮した配置とすること。
- ④ 一部の役割・配置については、ボランティアリーダーを配置し、メンバーへの現場での連絡役や休憩シフト調整役など担う。

（３） 都市ボランティアの主な活動内容

都市ボランティアの活動内容は、主要駅、競技会場の最寄り駅周辺等において、主に大会来訪者に対する案内であり、開催都市の顔として誘導案内サポートなど以下のような活動を想定している。

今後、ボランティア募集時・採用時など大会運営準備を進めていく中で、各必要人数の精査していく。

【都市ボランティアの主な活動内容】

種類	活動内容（例）
観光・交通案内サポート	インフォメーションセンター等において、国内外からの大会来訪者に対する観光・交通案内を行う。
誘導案内サポート	主要駅・競技会場の最寄り駅周辺等において観客の誘導案内を行う。

【大会ボランティア・都市ボランティアの活動について】

	大会 ボランティア	都市 ボランティア
想定人数	両大会合わせて約4万人の活躍を想定	
運営主体	事務局(組織委員会と開催都市)が運営	
活動内容	競技運営のサポートや観客案内など	観光・交通案内、最寄り駅における観客の誘導など
活動場所	競技会場、メインメディアセンター、宿泊施設などの大会関連施設	主要駅、競技会場の最寄り駅周辺のラストマイル(※)など

(※) 競技会場周辺における最寄り駅等から競技会場出入口に至る徒歩ルート及び、観客シャトルバスの乗降場を設置する場合には、観客利用想定駅・競技会場出入口と乗降場との間の徒歩ルート。

1-3 関係機関との連携

事務局は、競技会場を有する自治体や関係機関と連携を図り、一体となって、ボランティアに関する取組を促進していく。

(1) 関係自治体との連携

事務局は、ボランティアが効果的に活動できるよう、県内及び県外の自治体と連携し、ボランティアの募集・研修・運営に関して一体的な取組の推進を検討していく。

具体的には、大会ボランティア・都市ボランティアの募集案内の配布や自治体のWeb サイト等への掲載による一体的な機運醸成に取り組むとともに、競技会場を有する自治体とは、研修会場やユニフォーム保管場所の提供等を検討していく。

(2) 愛知学長懇話会との連携

愛知学長懇話会(※)と組織委員会は、「大会機運の醸成」、「教育の推進」、「相互の資源活用」を主な目的として、2023 年6月 16 日に連携協定を締結し、愛知・名古屋 2026 大会に関わる活動を通じて、学生が大会に主体的に関わり、成長につなげる取組を実施することとしている。

多くの学生がボランティア活動や機運醸成等への取組に参加することで愛知・名古屋 2026 大会が学習・成長の場となるよう、愛知学長懇話会と連携を行っていく。

(※)愛知県内すべての 4 年制大学の学長(総長)が加盟し、国公立大学の枠を超え連携することを目的として設立された団体

(3) 日本財団ボランティアセンターとの連携

公益財団法人日本財団ボランティアセンターは、東京 2020 大会のボランティアレガシーを有しており、団体の豊富かつ専門的な知見やノウハウを愛知・名古屋 2026 大会のボランティア募集や研修等に活用して取り組んでいけるよう連携を行っていく。

(4) 地域（既存のボランティア団体等）との連携

事務局は、ボランティア活動に関心がある方々や、日頃からボランティア活動をしている方々に、愛知・名古屋 2026 大会でもボランティアとして活躍いただけるよう、既存のボランティア団体との連携を行い、ミーティング等を実施していく。

ミーティングを通じて、団体のこれまでのボランティア活動の知識・ノウハウを聞き取り、他市区町村の自治体を通じて情報発信などを行っていく。

(5) 企業等との連携

愛知・名古屋 2026 大会のスポンサー企業を始めとした企業等を通じてボランティア参加への機運醸成や働く世代への積極的な参加促進に向けた取組を実施していく。

2 章 ボランティアの募集

2-1 募集に向けた取組

愛知・名古屋 2026 大会におけるボランティアは、大会運営の現場を支える存在であるとともに、その活躍が大会全体のイメージを形づくる重要な役割を担っている。

そのため、メディアやSNSでの情報発信だけでなく、ボランティア参加への機運醸成イベントを実施し、ボランティア募集の周知を行っていく。

また、募集に向けた取組については、事務局が進めていく。

2-2 活動条件および待遇

(1) ボランティアの活動条件

愛知・名古屋 2026 大会では、次の条件での活動を予定している。

①国籍条件

設定をしない(国内法令を遵守しており、在留資格を有すること)

②年齢要件

2026 年4月1日時点で、満 18 歳以上の方

※応募時に達していない場合は、保護者同意書の提出が必要

③語学要件

日本語でのコミュニケーションが可能であること

④研修等参加

指定の採用イベントや研修等に参加できること

⑤活動日数

・大会ボランティアは 10 日以上を目安

・都市ボランティアは 5 日以上を目安

※連続での活動は最大5日とする

※より多くの方々にご参加いただくため柔軟に対応していく予定

⑥活動時間

1 日あたり最長で8時間程度(休憩時間を除く)

⑦法令の遵守

日本国の法令遵守

⑧規約などへの同意

以下に同意し、「ボランティア参加誓約書(仮称)」を提出すること

- ・「ボランティア参加規約(仮称)」
- ・「プライバシーポリシー(仮称)」
- ・「システム利用規約(仮称)」

⑨本人確認

顔写真付きの証明書

⑩その他

運営側の定める公式ボランティアプログラムの趣旨に賛同していること

(2) ボランティアの待遇

愛知・名古屋 2026 大会では、次の待遇での活動を予定している。また、待遇については、より多くの方にご参加いただくため柔軟に対応していく予定である。

①ユニフォーム

ジャケット、Tシャツ、長ズボン等を支給(変更の可能性あり)

②ボランティア保険

スポーツ安全保険(A2)

③食事

提供あり

④交通費

支給あり(定額)

⑤宿泊費

自己負担

2-3 募集・採用

ボランティアの募集・採用にあたっては、ボランティアを運営・管理を行う事務局を設置して、以下のとおり実施していく。

(1) 募集時期

2024 年 10 月頃から 2025 年 1 月頃にかけて実施

(2) 募集方法

募集方法については、現状の想定として多くの方が簡単に応募できるように、Web サイトを通じた募集の実施を考えている。Web サイトを通じた募集では、パソコンや携帯電話、スマートフォン、タブレットといった様々な端末からアクセス可能な応募フォームの作成を検討していく。

また、出来るだけ多くの方がボランティア参加いただけるよう、募集方法に関する追加の検討もしていく。

(3) 採用イベント

募集時期に応募いただいた方を対象に、2025 年 2 月頃から 5 月頃を目途に採用イベントを実施する。

採用イベントでは、活動概要の説明や誰もが楽しんで参加できるようグループワーク等の実施を検討しており、その中でボランティア選考を行う。

(4) 採用通知

2025 年 6 月頃に採用イベントの選考を基にボランティア管理システムを通じて採用通知を行う。

2-4 多様な参加者の活動促進

誰もが安全・安心に活動し、大会を支える一翼を担うことができるよう、Aichi-Nagoya2026 アクセシビリティ・ガイドラインを踏まえた対応を実施する。

(1) 学生

次世代を担う学生がボランティア活動を通じて、ボランティア精神を育むとともに、その経験が学生の成長や地域活動への貢献などに繋がるようボランティア活動への参加を促進していく。

また、学生の専門性が発揮できるよう愛知学長懇話会との連携等を通じて、語学や医療、福祉、IT 等専攻する分野での、活動機会を提供していく。

杭州 2022 大会では、ボランティア参加者の約9割(約3万 3 千人)が学生であったことを踏まえ、学生が活動しやすくなるよう、ボランティア活動のカリキュラム化や学生の取りまとめ役として教員の配置等も検討していく。

(2) 社会人等

スポンサー企業始め企業等の従業員が参加しやすい仕組みや経済団体等への働きかけなど、企業等の従業員のボランティア参加を促進していく取組を検討していく。

企業の従業員が新たな経験を獲得し、自身のキャリア形成に資する機会にするとともに、企業での経験が活かせる役割に配置するように工夫していく。

また、個人でのボランティア参加など、参加しやすい環境づくりを検討していく。

(3) 障害者

障害の有無に関わらず、誰もが安全・安心な環境のもと、ボランティア活動ができるようにエントリー時から対面またはオンラインで行われる研修から活動当日まで、環境を整えていく。

エントリー時や研修申込み時、また活動希望のヒアリングの際には配慮や支援を必要とするか否かの確認を実施するとともに、大会期間中の配置と役割についても考慮していくことで、より充実した活動機会を提供していく。

3章 ボランティアの研修

これまでの過去の大規模国際イベントの経験より、ボランティアの活躍が大会成功の大きなカギとなっており、参加者の活動を支える研修は非常に重要である。ボランティアによるスムーズな大会を行っていくために不可欠な知識や心得の習得を目指した研修を事務局が実施する。

また、より多くの参加者が受講しやすい研修とするため、集合研修(県内外での実施)とeラーニング等を組み合わせて実施する。

以下に示した4つの研修を通し、ボランティア参加者が必要な情報を得る機会の提供を行う。

3-1 研修概要

(1) 共通研修

2025年7月頃から11月頃に、ボランティア活動に参加する上で必要な全役割における共通の知識や留意事項を習得する場として全体研修を実施する。

また、障害者等に対する接遇やアウェアネス(気づき)に関する研修を実施する。

主な研修内容および開講にあたって必要な場所や講師に関する詳細は、関係機関との連携を検討していく。

(2) リーダー研修

2025年頃から12月頃に、各ボランティアをまとめるリーダーを育成することを目的にリーダー研修を実施する。

研修内容には、具体的な役割や活動の留意点に加え、リーダーの心得なども盛り込むことを検討していく。

(3) 役割別研修

2026年4月頃から6月頃に、ボランティアの役割ごとに活動内容に関する役割別研修を実施する。

具体的な役割は2025年の2月頃に通知予定であるが、各役割における活動内容や専門的な知識、留意点の伝達を目的とした研修プログラムの検討していく。

(4) 会場別研修

2026年8月から9月に、各活動場所での必要な知識の習得を目的とした会場別研修を実施する。特に活動場所や競技の概要紹介、一部会場のベニュー研修等の実施を検討していく。

3-2 研修における留意点

(1) 多言語対応

愛知・名古屋 2026 大会に訪れるアジア各国の大会関係者や海外からの観客等の受け入れを適切に実施するため、観客案内や輸送、受付など各役割の状況やニーズを踏まえて言語要件や必要スキルを設定し、ボランティア参加者の持つスキルや強み等を最大限生かす形で役割を決定することを検討していく。

また、音声翻訳アプリなど、ICT の活用や用語、簡単な会話フレーズ等を研修に組み込むことを検討する。

(2) アクセシビリティ対応

様々な方々への対応を可能にするため、Aichi-Nagoya2026 アクセシビリティ・ガイドライン等を踏まえた研修となるよう、検討をしていく。

また、アクセシビリティ研修の目的は、全てのボランティアに対して、大会サービスの意味の理解を深め、障害に関する課題を明らかにして偏見を取り除くことである。障害のある人の社会的参加を困難としている社会的、制度的、心理的な障壁の除去（バリアフリー）についての考え方を全てのボランティアが理解し、障害のある全ての人々にとって質の高い大会の体験を保証できるようにするため、研修は、効果的かつ適切であり、かつ実務面を重視したものを検討していく。

【愛知・名古屋 2026 大会までのボランティアに関する主なスケジュール】

ボランティアに関する取組内容やスケジュールについては、現時点では次のとおり予定しており、今後、各項目について、詳細な内容やスケジュールを検討して進めていく。

分類	2023		2024				2025				2026	
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
主要イベント	ボランティア運営計画作成		募集要項等 作成		本番に向けたスタッフの意識付け		採用通知	リーダーオファー	役割通知	活動シフト通知		
募集準備/採用		ボランティア管理システム開発		ボランティア募集		採用イベント						
共通研修					研修コンテンツ開発		共通研修	リーダー研修				
役割別会場別研修			研修全体設計						E-ラーニング			
テストイベント/大会前ボランティア							研修コンテンツ開発		役割別研修	会場別研修		
									テストイベントボランティア			
										大会準備ボランティア		
											アクレディ ユニフォーム配布	

愛知名古屋2026大会

【各時期における取組の内容について】

名称	目的	実施内容	想定時期
① 集要項等作成	✓ 募集要項等の整理	✓ ボランティア運営規模について、精査 ✓ 全体スケジュール設計、採用や研修の全体像の整理を運営基本計画を基に募集要項や関連書類を作成	24年4月～ 24年夏頃
② ボランティア管理システム開発	✓ ボランティアの採用～本番運用までのシステムの開発	✓ ボランティアの募集、採用、研修日程調整、役割通知および活動シフト調整をおこなうシステムの構築	24年4月～ 24年秋頃
③ ボランティア募集	✓ ボランティアを募集する	✓ ボランティアを募集する	24年10月頃～ 25年1月頃
④ 採用イベント実施	✓ 採用イベントを実施し、ボランティアの選考をおこなう	以下を90-120分程度でおこなう ✓ 活動概要説明 ✓ 選考（グループワーク） ✓ ボランティアユニフォームの採寸（仮） ✓ アクレディテーションの写真撮影（仮）	25年2月頃～ 5月頃
⑤ 採用通知	✓ 大会ボランティア採用者を確定する	✓ 管理システムにより、採否結果を通知	25年6月頃
⑥ 共通研修	✓ 全役割共通の研修	✓ 大会ボランティアに参加する上で、共通の知識や留意事項をインプットする	25年7月頃～ 11月頃
⑦ eラーニング	✓ eラーニングの提供	✓ eラーニングでの研修コンテンツ提供	25年7月頃～
⑧ リーダーオファァ	✓ ボランティアリーダーの確定	✓ 管理システムにより、ボランティアリーダーの選出を通知	25年11月頃
⑨ リーダー研修	✓ ボランティアリーダーに、留意点等を研修	✓ リーダーの心得、求められる役割、活動における留意点を伝える	25年11月頃～ 12月頃
⑩ テストイベント ボランティア運営	✓ ボランティア運営テスト	✓ テストイベントへのボランティア参加およびボランティア運営のテスト	25年10月頃～
⑪ 役割通知	✓ 各ボランティアに対し、どの役割を担うか通知する	✓ 管理システム上での役割通知	26年2月頃
⑫ 役割別研修	✓ 役割別に必要な情報を研修	✓ 各役割に合わせ、活動内容、当日の動きと活動イメージ、留意点などを伝える	26年2月頃～ 6月頃
⑬ 活動シフト通知	✓ 各ボランティアに対し、活動シフトについて通知する	✓ 管理システム上での活動シフト（●月●日●時～、活動場所：●●）の通知	26年7月頃
⑭ 大会準備ボランティア	✓ 大会準備作業のサポートボランティア	✓ アクレディテーション作成など、大会前の準備作業の一部をサポートいただく	25年9月～ 26年9月
⑮ アクレディテーションユニフォーム配布	✓ アクレディおよびユニフォームの配布	✓ 本人確認→アクレディ配布 ✓ ユニフォーム一式配布→サイズチェック/一部取り替え(→受取確認)	26年8月～ 9月
⑯ 会場別研修	✓ 活動する場所での研修	✓ 活動場所概要/競技概要 説明 ✓ 一部会場のベニュー研修（避難経路含む）	26年8月～ 9月
⑰ その他	✓ 事前活動	✓ 事前の大会機運醸成等に参加していただく選択肢もありうる	随時

4 章 ボランティア参加に向けた機運醸成

4－1 愛知・名古屋 2026 大会のボランティアに関する情報発信

組織委員会と開催都市の Web サイトや SNS(X, Instagram, Facebook 等)を活用し、ボランティアに関する情報を発信していく。

掲載内容は、ボランティアの活動や募集案内に加え、ボランティアイベントのお知らせやレポートなどを予定している。

4－2 機運醸成イベントの実施

事務局は、愛知・名古屋 2026 大会におけるボランティア活動の周知および参加への機運醸成を目指し、今後、イベントを実施していく。

①シンポジウムの実施

愛知・名古屋 2026 大会のボランティア活動に興味を持っていただくため、愛知・名古屋 2026 大会の概要やスポーツボランティアについて学べる機会を、募集前に開催する。

②ボランティア募集説明会の開催

愛知・名古屋 2026 大会のボランティア活動について理解していただき、ボランティアへの参加機運を醸成していくため、募集に関する説明会を募集前から実施する。

③他イベント等における PR

組織委員会や開催都市等で実施するイベント等のあらゆる機会を捉えて、ボランティアに関心を持ってもらい、愛知・名古屋 2026 大会のボランティア募集に関する PR を積極的に行う。

【参考】2023年度実施した機運醸成イベント

2023 年度は、ボランティア活動の周知および参加者の拡大を目指して、次のとおり機運醸成イベントを 3 回開催した。

①学生向け

開催日：2023 年12月16日（土）

内 容：第 1 部 「東京オリンピックでの大学連携の取組について」

【登壇者】 山本華菜子氏（上智大学 Go Beyond 発起人）

第 2 部 「国際スポーツ大会におけるボランティアとは」

【登壇者】 関根花観氏（陸上女子日本代表）

山本華菜子氏（上智大学 Go Beyond 発起人）

【ファシリテーター】 神野幹也氏（RWC2019 ボランティアマネージャー）

第 3 部 「愛知・名古屋大会のボランティアについて」

【登壇者】 組織委員会人事課職員

②社会人向け(三河エリア)

開催日：2024年1月20日（土）

内 容：第 1 部 「愛知・名古屋大会のボランティアについて」

【登壇者】 愛知県スポーツ局アジア・アジアパラ競技大会推進課職員

第 2 部 「東京 2020 大会のボランティアの取組について」

【登壇者】 傳夏樹氏(東京 2020 大会でボランティア推進部長)

第 3 部 「愛知・名古屋大会のボランティアの取組について」のトークセッション

【登壇者】 武藤弘樹氏(アーチェリー日本代表経験者)

傳夏樹氏(東京 2020 大会でボランティア推進部長)

【ファシリテーター】神野幹也氏（RWC2019 ボランティアマネージャー）

③社会人向け(名古屋エリア)

開催日：2024年2月19日（月）

内 容：「第 20 回アジア競技大会及び第 5 回アジアパラ競技大会でのボランティアについて」のクロストークセッション

【登壇者】 松坂大輔氏(元プロ野球選手／シドニーオリンピック・アテネオリンピック野球日本代表)

吉木彰氏(名古屋市総務局総合調整部長)

【ファシリテーター】 神野幹也氏（RWC2019 ボランティアマネージャー）

5章 大会後のレガシー

5-1 共生社会の実現に向けて

愛知・名古屋 2026 大会のボランティア活動において、各ボランティア参加者が楽しみながら笑顔で活動し、その魅力を感じることが出来れば、大会後も様々なボランティア活動へ参加していくきっかけとなる。

大会に参加したボランティアが、継続的に様々なボランティア活動を行い、地域コミュニティの担い手となることで、互いに支え合う「共生社会」の実現に寄与できるよう大会後もボランティア活動への参加機運の維持・継続を図るための取組について組織委員会と開催都市で検討していく。

(1) ボランティア同士の交流機会の提供

ボランティアの採用イベントや研修を対面形式で実施し、ボランティアの参加者同士の交流機会を提供することで、新たなコミュニティの形成を促し、大会後も様々なボランティア活動参加に繋がっていくような取組を検討していく。

(2) 大会後を見据えたボランティアへの参加環境の整備

ボランティア参加者が愛知・名古屋 2026 大会後も様々なボランティア活動に参加できるよう、ボランティア休暇の促進等、各企業や関係機関と連携を図り、活動へ参加しやすい環境を整えることで、継続的なボランティア活動参加につなげていく。

(3) 募集情報の環境整備、活動機会の提供

開催都市と組織委員会だけでなく関係機関等の Web サイトや SNS 等を活用して、多様なボランティアの募集・活動情報を豊富に提供できる環境を整えていく。

また、スポーツボランティアに関する研修も開催をすることで、意識高く活動への参加促進をすることが可能となる。

(4) ボランティアの運営ノウハウの共有

ボランティアの募集・研修・運営によって得られたノウハウを、ボランティア関連の団体に提供することなどにより、各団体におけるボランティア組織運営に貢献していく取組を検討していく。